

生徒と教師のための部活動改革

宮城県仙台第三高等学校 8班

1. 背景と目的

高校生になり部活がより本格的になり、必要以上に部活をやってしまっていないか気になり部活動について調査を始めた。その過程で生徒だけでなく、教師も部活動の負担が大きいことがわかり地域移行を主とした負担軽減の方法についても調査し始めた。

生徒のための部活動改革

部活動ガイドライン(令和4年、12月)

- ・心身の健康管理・事故防止の徹底、体罰・ハラスメントの根絶の徹底
- ・週当たり**2日以上**の休養日の設定(**平日1日、週末1日**)
- ・一日の活動時間は平日は長くとも**2時間程度**、休養日は**3時間程度**とし効率的に活動する。

※原則として中学校、高等学校ともに適用。

教師のための部活動改革

部活動関係の業務見直し負担を減らす

- ・部活動の地域移行
- ・部活の指導の手当の増加
- ・生徒主体の部活にし、教師の仕事を減らす
- ・シフト制にし、学校にいない必要のない時間を減らす。
- ・活動時間を減らす
→生徒のための部活動改革で達成可能

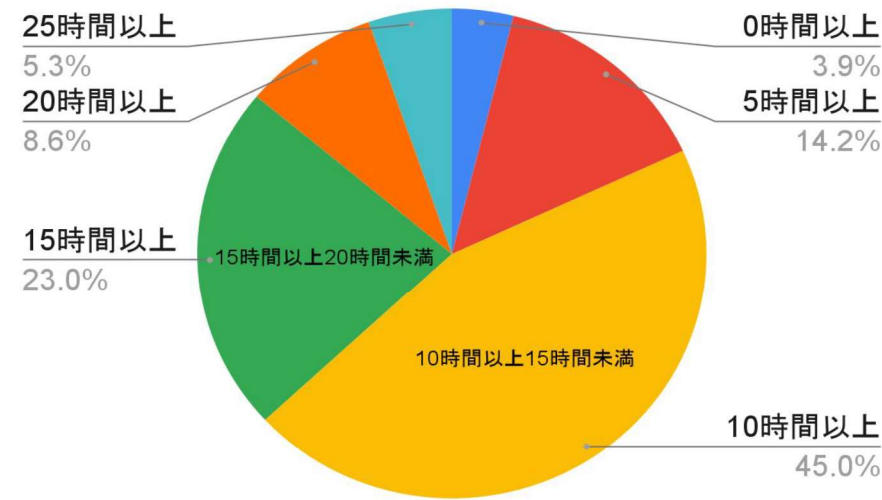
類似研究テーマの研究者へのインタビュー

(大阪成蹊大学スポーツイノベーション研究所講師 古川拓也氏)

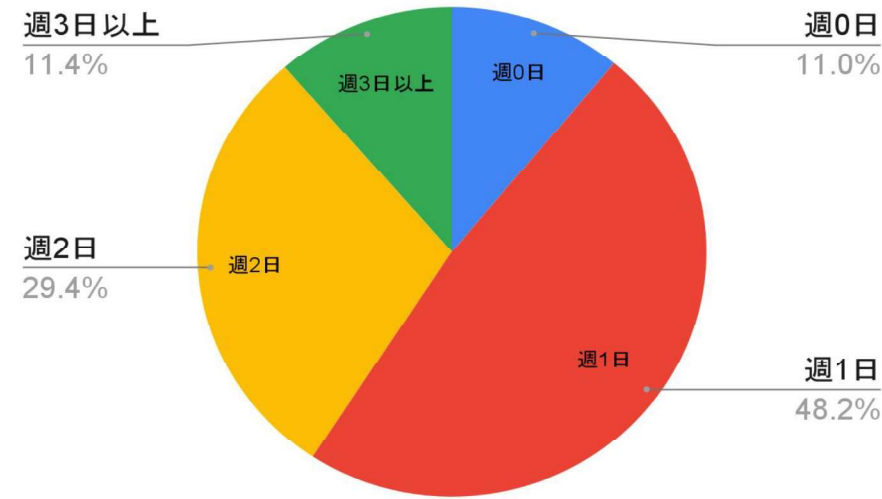
- ・民間の企業、団体にとって部活の地域移行は参入しづらいビジネスである。
- ・生徒側が部活動の指針について主体的に発信する必要がある。
- ・中体連、高体連に新たな役割(部活動の監視など)を持たせることは教員の仕事を増やすことを意味する。
- ・部活というものを『オープンなもの』にする必要がある。
- ・部活内部だけでなく外部の人間を巻き込む必要がある。

実際は多くの高校でこのガイドラインが守られていない。
「学校運動部活動指導者の実態に関する調査」より

一週間における活動時間



一週間における休養日の日数



生徒主体で部活動の改善に取り組む必要がある

- ◆部活の委託をする地域移行には現状期待できない
- ◆中、高体連に担わせることはできない
- ◆生徒が自ら取り組むことで成長できる

今後の展望

生徒からの顧問の教師へのフィードバックの実施

◇流れ

- ・生徒に対して部活の実態を調査する
↓
- ・アンケートで得られた情報を分析し問題であるかどうかを判断する。
▽例
顧問から高頻度で怒られるという情報があつた時、それが本当か、『厳しい指導』の範疇か
↓
- ・問題点(改善すべき点)をまとめ、教頭に提出する
↓
- ・教頭より該当する顧問に伝達、改善の要望をする

現在、アンケートの調査内容や方法を検討中。一度探究班として実施した後、生徒会に依頼し定期的に実施してもらう予定である。

参考文献

- ・学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（令和4年12月）：スポーツ庁
- ・学校部活動と地域のクラブ活動等のガイドライン - 宮城県公式ウェブサイト
- ・学校運動部活動指導者の実態に関する調査（日本スポーツ協会）

